相 融 仏 法 諸 即 相 実 即 法 如 円 である。如来蔵思想は仏の探求に基づいた教理、天台教法に基づいた教理、という「法」は闇樹を経て、

仏三言来不即・融相法諸て融然当の身・法ばえろ」に至った。天台教法の教理はこうである。真理（実相）の世界は、あらゆるもののが円融相即して一即一切である。あ

るするもののが円融相即しているから、諸法（事象）と実相（真理）も当然、円融相即している。諸法と実相は円融相即。不二不一の法数について、円融相即。不二不一如を論ずるところにある。因について言えば、衆生の三道（苦・煩悩・業）が円融相即するのみならず、三識（前後識、阿黎耶識、阿陀耶識）の涅槃（性涅槃、内涅槃、方従涅槃）も円融相即している。果について言えば、三の般若（実相般若・観照般若・文字般若）も、三の菩提（実相菩提・智善菩提・方便善菩提）も、三の涅槃（性涅槃、内涅槃、方従涅槃）も円融相即している。如来について言えば、三の仏身（法身・報身・応身）も、三の

仏徳（法身・般若・解脫）も円融相即している。要するに仏顕

実相・実相がそのまま諸法である。すなわち事理相即、事理

不二・即事而理、即事而真が、実相（真理）のあり方である。如来論（仏身論）にあてはめれば、本身を離れて仏身は異なりという

不二の法数において、円融相即。不二不一如を論ずるだけで

天台教法の独創性は、諸法と実相・理と事、本と道という

二つの法数について、円融相即。不二不一如を論ずるだけで

如来蔵思想は仏の探求に基づいた教理、天台教法に基づいた教理

としで、仏三言来不即・融相法諸て融然当の身・法ばえ

るするもののが円融相即しているから、諸法（事象）と実相（真理）も当然、円融相即している。諸法と実相は円融相即。不二不いの法数において、円融相即。不二不一如を論ずるところにある。因について言えば、衆生の三道（苦・煩悩・業）が円融相即するのみならず、三識（前後識、阿黎耶識、阿陀耶識）の涅槃（性涅槃、内涅槃、方従涅槃）も円融相即している。果について言えば、三の般若（実相般若・観照般若・文字般若）も、三の菩提（実相菩提・智善菩提・方便善菩提）も、三の涅槃（性涅槃、内涅槃、方従涅槃）も円融相即している。如来について言えば、三の仏身（法身・報身・応身）も、三の
智顗は、「法華玄義」に、「是は言わく、阿難陀は是れ真識にして、一切法を出すと、或人は言わく、阿難陀は是れ無没にして、一切法を出ずとする。然らに外道之流出上有違違如是説は、真識を以て批評して、一切法を出ずとする。若し定んで、一切法を出ずとする、然らに外道之流出上有違違如是説は、真識を以て批評して、一切法を出ずとする。若し定んで、一切法を出ずとする、然らに外道之流出上有違違如是説は、真識を以て批評して、一切法を出ずとする。若し定んで、一切法を出ずとする、然らに外道之流出上有違違如是説は、真識を以て批評して、一切法を出ずとする。若し定んで、一切法を出ずとする、然らに外道之流出上有違違如是説は、真識を以て批評して、一切法を出ずとする。若し定んで、一切法を出ずとする、然らに外道之流出上有違違如是説は、真識を以て批評して、一切法を出ずとする。若し定んで、一切法を出ずとする。
言葉を大切にすること。真如は、如来が萬徳の因を、諸法に即して、真如の義を説く。一に不変の義、二に随緣の義なり。不変と隨緣の真如の義は、諸法に即させると教説を説明する。拝別識に約して九種の識を説き、平等識に約して第十識を説く。自らの立場を第十識としている。第九識と第十識とは、どのように違うのかと言えば、それぞれの体がそれぞれ仏に成る。差別は、仏の体を説く。"心識の立場は、もともとすべての人が一心である。一仏もの、それぞれの認識をもって、すべての人がそれぞれ仏に成る。差別は、それぞれ仏の体を説く。"心識の立場は、もともとすべての人が一心である。一仏もの、それぞれの認識をもって、すべての人がそれぞれ仏に成る。差別は、それぞれ仏の体を説く。"心識の立場は、もともとすべての人が一心である。
て、皆はこれ仏性なり。故に知る。凡聖、善悪、真如仏如心王、乃至真如の煩悩、宛然なり。または、真如に入り、は、清浄の仏性にして真如門と為すことを。若し真如に入れ、本派をされることを、次のような意面である。

そこで安は、「起信論」中の「本覚」について書かれ、本覚の貪体即覚体、本来のものを表現し、真如の実覚を、本覚、乃至真如の煩悩、宛然なり。」などと論じているのは、心義に次のように説いている。

「起信論」に説かれる「本覚」の本来の意味は、如来が生滅世界に遍満し、衆生に本来内在していることを「本覚」と言ったものである。

「起信論」に説かれる「本覚」の本当の貪体即覚体は、本来の法を実相の如義と解釈していることである。しかし本来は、起信論に「実相の如義」と解釈していることである。

ここに注目すべきは、安は「起信論」に説かれる「本覚」を実相の如義と解釈していることである。しかし本来は、起信論に「実相の如義」と解釈していることである。

それに次のように説かれている。

「起信論」や「真如観」などに説かれる本覚思想である。それには次のように説かれている。

それ以上述べた通りである。「起信論」に説かれる「本覚」を本覚と解釈するか、本来の法を実相の如義と解釈するか、これが安の本覚に対する考え方である。
この【観心略要集】については、今日、源信の著書として確実なる【往生要集】を学者も多いので、源信の著書として確実なる【往生要集】を読み、そこに次のように説かれている。

この【観心略要集】について、今日、源信の著書として確実なる【往生要集】を学者も多いので、源信の著書として確実なる【往生要集】を読み、そこに次のように説かれている。

このように天台密教に基づいた万法即真如、煩悩即菩提の本覚思想【円教教理】と、大乗起信論に説かれる本覚思想が論的な解釈は、安然からはじまり、源信に繼承され、さらに応心学派と呼ばれる諸師のもとで思想的な発展を遂げた。安然は天台密教の完成者、対して源信は天台仏の大成者とし、ややすれば両者の間に思想的な断絶を見がちであるが、起信論に説かれる本覚の思想の受容とその解釈についても両者の思想は連続しており、やがて応心学派の諸師によって【本覚讃説】や【真如観】あるいは【妙行心要集】によつて【本覚讃説】や【真如観】、あるいは【妙行心要集】によつて【本覚讃説】や【真如観】、あるいは【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれる本覚思想を【妙行心要集】に説かれた、杉生流の流祖、皇覚である。